

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 埼玉福祉保育医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 埼玉福祉学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|---|------------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 社会福祉専門課程 | 介護福祉士科 | 夜・通信 | 300 時間 | 160 時間 | |
| | 保育士科昼間主コース | 夜・通信 | 180 時間 | 160 時間 | |
| | 保育士科夜間主コース | 夜・通信 | 180 時間 | 160 時間 | |
| | 社会福祉士科 | 夜・通信 | 270 時間 | 240 時間 | |
| | こども福祉科Ⅱ部 | 夜・通信 | 150 時間 | 135 時間 | |
| 医療専門課程 | 言語聴覚士科 | 夜・通信 | 240 時間 | 240 時間 | |
| (備考) 社会福祉士科 (3 年制)、こども福祉科Ⅱ部 (3 年制) については、募集停止しているため本年度は第3学年のみ在籍。保育士科夜間主コース (2 年制)、言語聴覚士科 (3 年制) については、本年度が開講1年目のため第1学年のみ在籍。 | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://www.scw.ac.jp/school/jyohou/syllabus/ |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 埼玉福祉保育医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 埼玉福祉学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|-------------|-------------------|-----------------------------|---------------------|
| 大野昭弘 非常勤 | (株)日本倍企画 代表取締役 | 2020.3.29 ～ 2023.3.28 | 適切な情報収集 |
| 岩原辰夫 非常勤 | (株)国際教育社 顧問 | 2020.3.29 ～ 2023.3.28 | グローバル対応 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 埼玉福祉保育医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 埼玉福祉学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) | |
| <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/syllabus/ |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |
| (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) | |
| <p>学習成果の評価については、すべての授業科目について、定期試験(追試験・再試験含む)及び毎回授業にて実施する小テストの2要素を実施し、評価は「A～F」の6段階評価を行い、D以上を合格としている。科目の評価は定期試験60%と毎回の小テスト40%の配分を総合し評価している。定期試験の方法は筆記試験・実技試験・レポートのいずれかで行う。</p> <p>単位の評価評定は、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応させることを目的として総合平均(Grade Point Average(以下GPAという))を用いる。</p> <p>また、成績については各個人へのフィードバックと成績通知表の送付により学生へ告知している。</p> | |

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおり。(GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。)

【GPAを算出する計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{(該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP)の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

| | | | | | |
|-------|------------|------------|------------|------------|----------------------|
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E 又は F |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |

客観的な指標の算出方法の公表方法

<https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。

【ディプロマポリシー】

滋慶学園は、「建学の理念」と「4つの信頼」に基づいて、「即戦力となる学生を育成し、社会に貢献することを最終目標」とし、特定の職業に従事するために必要な技術・知識、態度、考え方をもった学生を社会・業界に送り出すこととしています。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 学内における様々な教育プログラムを通じて社会人基礎力が培われている。
2. 産業界との連携により職業人・業界人としての人間力を、また社会人としての身構え、気構え、心構えを身につけている。
3. 職種に応じ必要とされる知識・技術、国家資格等を取得することで身につけている。
4. 他者や異文化に対する理解を深め、自らの見解と高い視野を備えた国際感覚を身につけている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 埼玉福祉保育医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 埼玉福祉学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |
| 財産目録 | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |
| 事業報告書 | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |
| 監事による監査報告（書） | https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|---------|----|-----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 教育・社会福祉 | | 社会福祉専門課程 | 介護福祉士科 | ○ | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 2,122 単位時間 | 930 単位時間 | 742 単位時間 | 450 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 2,122 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 80人 | | 93人 | 20人 | 5人 | 10人 | 15人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> |
| GPAの算出方法 |

GPA を算出する計算式は以下のとおり。（GPA の算出は、小数点以下第 3 位以下を四捨五入するものとする。）

【GPA を算出する計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得た GP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

| | | | | | |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------------|
| 実点数範囲 | 100 点～90 点 | 89 点～80 点 | 79 点～70 点 | 69 点～60 点 | 59 点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E 又は F |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。

学修支援等

（概要）

クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---------------|--------------|-------------------|--------------|
| 42人 (100%) | 1人 (2.4%) | 39人 (92.8%) | 2人 (4.8%) |

（主な就職、業界等）

介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設、訪問介護事業所等

（就職指導内容）

担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。

（主な学修成果（資格・検定等））

介護福祉士

(備考) (任意記載事項)

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|------|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 93人 | 4人 | 4.3% |
| (中途退学の主な理由) 在留資格不交付、進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | 保育士科昼間コース | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,920 単位時間 | 420 単位時間 | 1470 単位時間 | 380 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 2,270 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 80人 | 90人 | 0人 | 8人 | 17人 | 25人 | | |

| | | | | | |
|--|----------|---------|---------|---------|-----------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $\text{GPA} = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$ | | | | | |
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E又はF |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定</p> | | | | | |

| |
|---|
| <p>会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> |
| <p>学修支援等 (概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。</p> |

| | | | |
|---|--------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 40人 (100%) | 0人 (0.0%) | 39人 (97.5%) | 1人 (2.5%) |
| (主な就職、業界等) 保育所、幼稚園、障害児支援施設、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設等 | | | |
| (就職指導内容) 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種免許 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 90人 | 4人 | 4.4% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更、職業委託訓練生のため動機付け不足 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | 保育士科夜間コース | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,920 単位時間 | 270 単位時間 | 750 単位時間 | 140 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 40人 | 27人 | 0人 | 8人 | 17人 | 25人 | | |

| | | | | | |
|---|----------|---------|---------|---------|-----------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $\text{GPA} = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$ | | | | | |
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E又はF |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定</p> | | | | | |

| |
|---|
| <p>会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。</p> |

| | | | |
|---|-----------|-------------------|-----------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 0人 (100%) | 0人 (%) | 0人 (%) | 0人 (%) |
| (主な就職、業界等) なし | | | |
| (就職指導内容) 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習状況や適性等、総合的に判断し受験先を決定する。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをする予定。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) なし | | | |
| (備考)（任意記載事項） 2020年度開講のため第1学年のみ在籍。 | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 0人 | 0人 | 0.0% |
| (中途退学の主な理由) なし | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | 社会福祉士科 | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 2,610 単位時間 | 300 単位時間 | 420 単位時間 | 330 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 1,050 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 40人 | 24人 | 0人 | 4人 | 14人 | 18人 | | |

| | | | | | |
|---|------------|------------|------------|------------|-----------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $\text{GPA} = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$ | | | | | |
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E又はF |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定</p> | | | | | |

| |
|---|
| <p>会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。</p> |

| | | | |
|---|--------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 25人 (100%) | 0人 (0.0%) | 24人 (96.0%) | 1人 (4.0%) |
| (主な就職、業界等) 高齢者施設、障害者支援施設、児童福祉施設、一般病院・精神科病院など医療機関等 | | | |
| (就職指導内容) 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 社会福祉主事任用 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 50人 | 1人 | 2.0% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 教育・社会福祉 | 社会福祉専門課程 | こども福祉科Ⅱ部 | ○ | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 夜 | 1,920 単位時間 | 30 単位時間 | 390 単位時間 | 180 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 600 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 40人 | 14人 | 0人 | 4人 | 11人 | 15人 | | |

| | | | | | |
|---|------------|------------|------------|------------|-----------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $\text{GPA} = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$ | | | | | |
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E又はF |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定</p> | | | | | |

| |
|---|
| <p>会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。</p> |

| | | | |
|---|--------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 20人 (100%) | 0人 (0.0%) | 19人 (95.0%) | 1人 (5.0%) |
| (主な就職、業界等) 保育所、幼稚園、障害児支援施設、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設等 | | | |
| (就職指導内容) 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 35人 | 1人 | 2.9% |
| (中途退学の主な理由) 精神疾患 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 医療 | | 医療専門課程 | 言語聴覚士科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 2,835 単位時間 | 975 単位時間 | 60 単位時間 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 |
| | | | 1,035 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 40人 | | 42人 | 0人 | 7人 | 18人 | 25人 | |

| | | | | | |
|---|------------|------------|------------|------------|-----------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p> | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$ | | | | | |
| 実点数範囲 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 または不合格 |
| 成績評価 | A | B | C | D | E又はF |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0.0 |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | |
| <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。</p> | | | | | |

| |
|--|
| <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> |
| <p>(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|-----------|-------------------|-----------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 0人 (100%) | 0人 (%) | 0人 (%) | 0人 (%) |
| (主な就職、業界等) なし | | | |
| (就職指導内容) 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に、学習状況や適性等、総合的に判断し受験先を決定する。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをする予定。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) なし | | | |
| (備考)（任意記載事項） 2020年度より開講のため第1学年のみ在籍 | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|------|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 0人 | 0人 | 0.0% |
| (中途退学の主な理由) なし | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面接、保護者への連絡・相談・連携の実施サポートアンケートを年度当初に全学生から回収し分類調査、出席状況や成績表と合わせてデータベース化して教職員間で情報共有。効果的な学生指導に生かしている。また、スクールカウンセラー（臨床心理士等）を配置して精神面のケアも実施している。 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考(任意記 載事項) |
|--------------|-----------|-------------|-----------|----------------|
| 介護福祉士科 | 50,000 円 | 650,000 円 | 480,000 円 | |
| 保育士科昼間主コース | 50,000 円 | 650,000 円 | 480,000 円 | |
| 保育士科夜間主コース | 50,000 円 | 650,000 円 | 480,000 円 | |
| 言語聴覚士科 | 100,000 円 | 900,000 円 | 450,000 円 | |
| 修学支援(任意記載事項) | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|---|-----------------|-------|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ | | |
| 学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) | | |
| <p>【目的】</p> <p>①自己評価結果の客観性・透明性を高める。</p> <p>②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。</p> <p>【主な評価項目】</p> <p>1 教育理念 2 学校運営 3 教育活動 4 学修成果 5 学生支援</p> <p>6 教育環境 7 学生の募集と受入れ 8 財務 9 法令等の遵守</p> <p>10 社会貢献・地域貢献</p> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価結果の内容が適切か 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か 学校の重点目標や評価項目等が適切か 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か <p>【評価結果の公表・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会等はその評価結果や今後の改善策等についてとりまとめ、広く公表する。学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。 <p>【実施体制】</p> <p>学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者評価委員会は、次のような「学校関係者」を選任する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の専門分野における業界関係者 ・卒業生 ・保護者 ・地域住民 高等学校の校長 (各区分1名以上の選出) | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 介護老人保健施設 いづみケアセンター 施設長 | 2019年4月～2021年3月 | 業界関係者 |
| 社会福法人 宮原ハーモニー 理事長 | 2019年4月～2021年3月 | 業界関係者 |

| | | |
|--|-----------------|---------|
| 一般社団法人埼玉専修学校各種学校協会 参与 元高等学校校長 | 2019年4月～2021年3月 | 高等学校関係者 |
| 仲町三丁目自治会 広報部長 | 2019年4月～2021年3月 | 地域関係者 |
| 学生の保護者 | 2020年4月～2021年3月 | 保護者代表 |
| 社会福祉法人清幸会 事務長 | 2019年4月～2021年3月 | 卒業生代表 |
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ | | |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/ |
|--|